

倭女文庫四拾編

外題豐之國史

安政六
己未春

新刊



上

倭文庫

安政六

巳未春

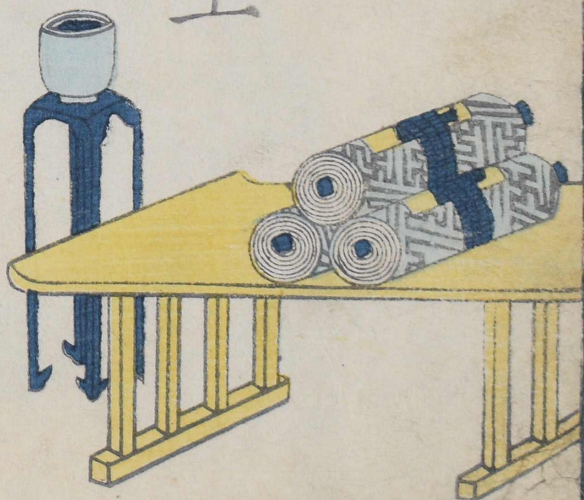
新梓

四拾編

卷之上

万亭應賀作

歌川國貞画



人形町通

上州屋重藏板

釋迦八相倭文庫四拾編叙

夫經卷そればかり不有ある人物もの其生そのせいと死しと詳つひふせた唯時ただとき宜いの一條いっとう宛の而を
 已こと説とのまれも信者あいての同行どうぎょう敢あて夫そと尋たづねな邂逅たまたま戯あそ双史ふたしと見て
 善惡ぜんあくの應報おうほう人物にぶつの始はじめ有あて終はつるまのま有あるま少女せうにょも穴あなと穿うるま作さ
 者ものと諺ことわざ噂うわさ甚し一ひと二編ふたへん不發覺ふはつかくる阿私陀仙あしだせんを此編このへんめて
 終はつせ兼かて抱かかり者ものの鹿野女しかのめの局しやう或ある丹車たんぐるの身みの終はつをも筆ふでに食く
 所謂すゐ彼先かのさき一里いちり後あと一里いちりのま間まの宿しゆく不ふ休しやうて本意ほんいをうるま噂うわさ不ふ邪じや
 風かぜと引ひくまの氣障きさうを除のぞくま為ためあるまとし

安政六巳未年
孟陬吉旦發行

万亭應賀誌



天女アマノメノコ 勢セ 法性妙顯ホウセイミョウケン



提婆達多

提婆達多
伊奈利国香
山の峯あはれ
偽の天女を
阿闍世太
子に媒妁を

阿闍世太子



世尊

加毘羅維城の

上鴈衆

世尊の法衣

と献ぎ

舍利弗尊者



優艶妻の女房

加毘羅城の

女中

好容夫人

鹿野の
の

五

一水

4943

人

子

...

けの

ちりてふにあらむのえの

三

25005

25

五十六

為世宗宗山宗

とあるは

急ぎ事

ふたひのうき

卷之八

1018-1019-1020

とてとてと

の山をこれぞと

立

卷之四

の

平陽府志

己未年

卷之六

卷之五

三才圖會

22

人

卷之六

卷之四



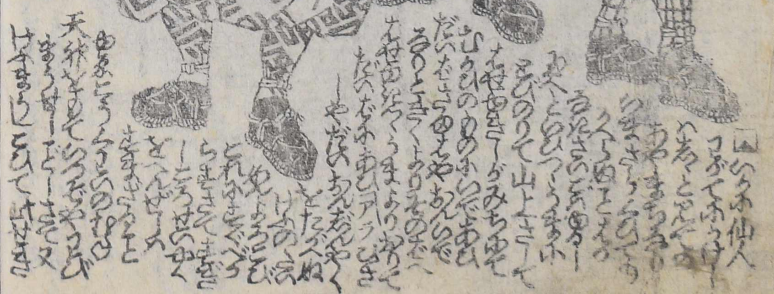
のどを
えれは
たの川
の岩
ねお
まろ
てた
うの
子法
水
の
の
あ
その
う
あ
万
や
を
れ
れ
れ
れ
れ
れ
の
ひ
の



木
女
大
軍
日
は

卷之四

おふんをもちて、
どうのうるといふ



[illegible]

天帝不降其命

仙人の
たふし

死の口なきを

方者不方方者不方

不仙入少生と云ふ。

入
な
もの

五世

五

Omry 1834

Yafac

304

子

千是世

と云ふは

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side.]

卷之八

15-10-1916

Handwritten text in Devanagari script, likely a signature or name, oriented vertically.

七のあふん

あまのこ

生るるもの

祖上

十年

18 Nov 10

人びとへの

卷之四

大

卷之四

三ノ

24. K. in v. do

五

聖德太子

31

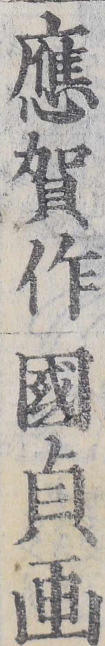
22

一五七

あつたをらんども
まへにふかきある
あやしく五葉たふらうのこはそだも
みるれあふちのふちうちやひさあ
せりよりいそぎるものゆて仙とあらう

とてく先
来りしもの
廿二又つふ
せらるゝと
正の時うふ
あやけはな
わづれをさへ
まろふもそひて
そざれを
すむせり
たのしみこころ
ほだつる
ゆきおどかぬ
けがする
とある
その
あきら
うしろで
この天女の
けんまりなき
あらん

傳文庫
四十一



倭文庫出世双六

應賀作
豊國画

春の將棋双六

同作
貞房画

男女役替双六

同作
同画

武家奉公出世双六

同作
豊國画

奥奉公出世双六

同作
同画

子寶延命袋

同作
同画

紅摺全二冊

重榮御江戸繪圖

奉書四枚半つた

大寶御江戸繪圖

極上摺奉書六枚半つた

